

岡山大学環境報告書を読みましょう!

岡山大学環境方針・目的・目標、環境に関する教育・研究のトピックス、環境負荷の状況等を把握し、環境に配慮した活動を推進していきましょう。



岡山大学環境方針 Okayama University Environmental Policy

基本理念

岡山大学は、「かけがえのない地球環境をまもり、自然豊かな環境を明日の世代に引き継ぐことが人間社会の基本的な責務である」との認識に立ち、本学における教育、学術研究を始めとするあらゆる諸活動を通して、持続性のある循環型社会を構築し、維持するために地球環境への負荷の低減に努め、サステナブル・キャンパスをめざします。また、岡山大学を真に国際的な学術拠点として、都市・地域が連繋した「実りある学都」をめざします。

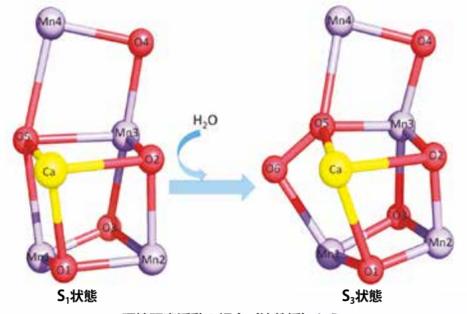
基本方針

岡山大学は、11の学部と、7研究科並びに3研究所、岡山大学病院、附属学校園等を擁した総合大学としての特徴を活かし、以下の活動を積極的に推進します。

1. 地球環境・地域環境・生物多様性に関連する教育及び学術研究の活動を推進し、国内外の環境分野において中核的に活躍しうる高い総合的能力と人格を備えた人材を養成するとともに、環境の保全及び改善に貢献する新たな研究成果の創成と継承に取り組みます。
2. 環境に関連する公開講座、シンポジウム等の開催のほか、地域社会との連携を推進し、環境配慮に関する貢献活動に取り組みます。
3. 環境に関連する法令、協定及び自主基準等を遵守します。
4. 事業活動において、次の項目を地球環境保全の重点テーマとして取り組みます。
 - ① 省エネルギーの推進
 - ② 地球温暖化対策
 - ③ 省資源対策
 - ④ 廃棄物の減量化・再資源化及び有害廃棄物の適正処理
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 化学物質の管理徹底
5. 教職員、学生、生徒など岡山大学に関係する全ての人々が、それぞれの立場で、自発的・積極的に環境保全活動の継続的な改善・向上に取り組みます。

2017年4月1日

国立大学法人岡山大学長 槇野 博史



「ユネスコ/日本ESD賞」表彰式の様子(ユネスコ本部提供)
(左から、佐藤ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、小西岡山市職員、阿部教授、ボコバ事務局長)



環境管理センター公開講演会の様子

岡山大学における環境負荷の状況 Environmental Load of Okayama University

INPUT

【エネルギー】
●総エネルギー消費量：823,557 GJ(803,596 GJ)
対前年度比：+2.5%
※平成28年度原油換算値：21,248 kL

【エネルギー消費内訳】
●電力：67,472 kWh
※平成28年度原油換算値：16,990 kL
●ガス：都市ガス(13A)：2,872千m³
液化石油ガス(LPG)：8 t
※平成28年度原油換算値：3,420 kL
●A重油：783 kL
※平成28年度原油換算値：790 kL
●その他化石燃料：52 kL
※平成28年度原油換算値：49 kL

【水資源】
●上水使用量：496,300 m³(492,669 m³)
対前年度比：+0.7%

【紙資源】
●PPC用紙購入量：177,738 kg(179,031 kg)
対前年度比：-0.7%

【その他】
●化学物質、実験機器、グリーン購入調達物品等

岡山大学の教育・研究・医療・社会貢献等の諸活動

OUTPUT

【温室効果ガス】
●二酸化炭素排出量：55,889 t-CO₂(53,069 t-CO₂)
対前年度比：+5.3%

【温室効果ガス排出内訳】
●電力：47,034 t-CO₂
●ガス：都市ガス(13A)：6,589 t-CO₂
液化石油ガス(LPG)：25 t-CO₂
●A重油：2,121 t-CO₂
●その他化石燃料：127 t-CO₂

【排水】
●下水道排水量：443,106 m³(439,024 m³)
対前年度比：+0.9%

【廃棄物及び再資源化物】
●廃棄物及び再資源化物排出量：2,261 t(2,835 t)
対前年度比：-20.2%

【廃棄物及び再資源化物排出内訳】
●一般廃棄物排出量：1,001 t(943 t)
●産業廃棄物排出量：699 t(1,236 t)
●再資源化物排出量：561 t(658 t)

【化学物質】
●PRTR法対象物質届出
●クロロホルム
●ジクロロメタン
●ルナルヘキサン
●クロロホルム
●ジクロロメタン
●ルナルヘキサン

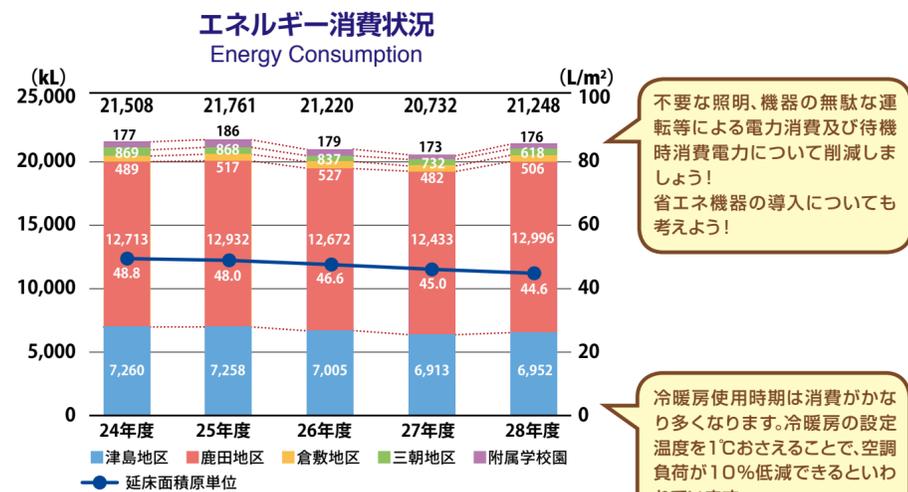
平成28年度の負荷量を示す。()内は平成27年度の負荷量

岡山大学における年間一人当たりの主な環境負荷*

- 電力使用量 約3,700 kWh
- 二酸化炭素の排出量 約3,000 kg
- 廃棄物の排出量 約120 kg
その内 約30 kgが再資源化
- 上水(水道水)の使用量 約27 m³

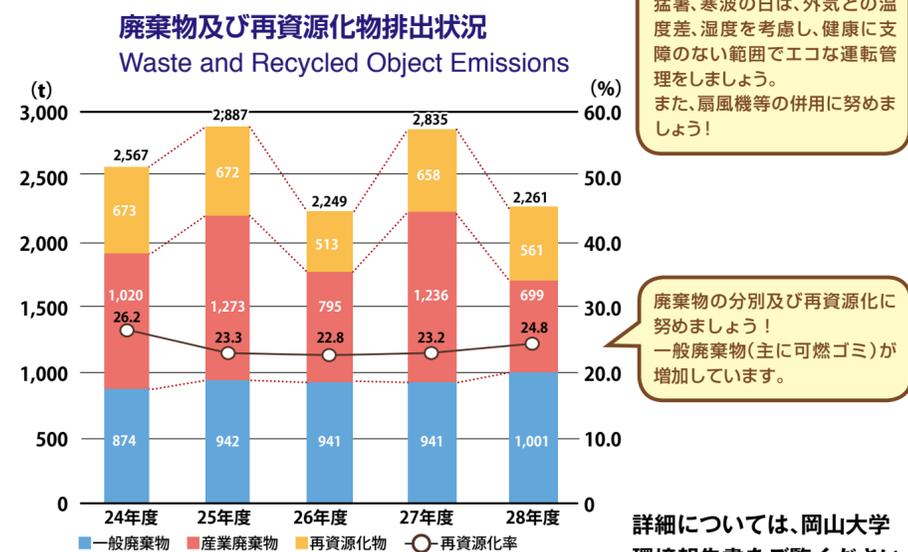
家庭などと比べて
どうでしょう?

*平成28年度の負荷量及び岡山大学構成員数(教職員・学生等(児童・生徒・園児含む) 18,474人で計算しています。家庭での一世帯当たり(約2.3人)の電力消費量は、資源エネルギー庁の2016年度の統計から、4,729 kWh/年・世帯となります。また、家庭からのCO₂排出量は、国立環境研究所の2015年度の統計から、4,939 kg・CO₂/年・世帯となります。



不要な照明、機器の無駄な運転等による電力消費及び待機時消費電力について削減しましょう!
省エネ機器の導入についても考えよう!

冷暖房使用時期は消費がかなり多くなります。冷暖房の設定温度を1℃おさえることで、空調負荷が10%低減できるといわれています。
猛暑、寒波の日は、外気との温度差、湿度を考慮し、健康に支障のない範囲でエコな運転管理をしましょう。
また、扇風機等の併用に努めましょう!



廃棄物の分別及び再資源化に努めましょう!
一般廃棄物(主に可燃ゴミ)が増加しています。

詳細については、岡山大学環境報告書をご覧ください。



お問合せ窓口：国立大学法人岡山大学 安全衛生部安全管理課 環境管理グループ
Tel/Fax.086-251-7281

岡山大学環境報告書は、岡山大学ホームページで公表しています。
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/er.html>

岡山大学環境報告書

検索



占版紙率80%再生紙を使用しています

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。